

次期「子ども読書プラン（素案）」【概要版】

子ども読書プランの主な成果

- 母子手帳の交付と合わせて絵本パック配布《配布率99%》
→妊娠時から子どもの読書への関心を高める
- 学校図書館職員の配置の拡充《63名》
→学校図書館の常時開館など利用しやすい学校図書館へ
- 子ども図書館がオープン《H30.12》
→学校図書館、地区図書館と三位一体による推進体制の確立 など

子どもの読書活動の主な課題

- 【不読率】は改善しているものの、全国平均に届かない
- 【児童生徒の1か月あたりの読書冊数】が伸びていかない
- 【市立図書館の1人あたりの貸出冊数】が伸びていかない
- 子どもの読書習慣の形成には、身近にいる大人や友達の影響も大きい
- 障害者、外国人などが読書を楽しめる環境が必要

子ども読書を取り巻く環境の変化

- 学習指導要領の改訂（国語の学習が読書活動へ結びつくよう指導の実施）
- 世界的な取り組みとしてのSDGs
- GIGAスクールの推進（一人1台タブレットが当たり前）
- Withコロナ など

読書の意義

- 「言葉の力をつける」「いろいろ体験する」「知らないことを知る」「他人の考えに触れる」ことができる楽しいもの
- 読解力、表現力、思考力、想像力、問題解決力など多くの「生きる力」を身に付けることに役に立つもの

全体を貫く視点

自ら本を手にする
(自主性・主体性)

楽しさを分かちあう
(交流)

誰もが気軽に楽しめる
(バリアフリー、ICT)

ビッグライドを醸成する
SDGsに貢献する

すべての子どもが、日々の生活の中ですすんで本を手にとって読み、子ども同士や家族などと楽しく語り合う日常

- 本との出会いを楽しみにする子ども
- 本から学び、知ることの喜びを感じる子ども
- 読書の楽しさ、大切さを知り、発信でき、生涯に渡って読書に親しもうとする子ども

目指す姿

読書に親しむ子どもを増やす
(裾野を広げる)

読書の大切さを知る子どもを増やす
(読書が大好きな子ども(コアファン)を増やす)

子どもの読書を支える大人を増やす
読書好きの大人・家庭を増やす

- 《成果指標》
- 不読率→全国平均以下
 - 読書好きな児童生徒の割合

- 《成果指標》
- 子ども司書、ジュニアサポーター数
 - 放課後や休日等に学校図書館や地域の図書館を全く利用しない児童生徒の割合

- 《成果指標》
- 読み聞かせボランティアバンクからの派遣件数
 - 読書好きな保護者・家庭の割合

3つの方向性

家庭における
読書活動の推進

学校における
読書活動の推進

市立図書館における
読書活動の推進

地域(子育て関連施設、市民センターなど)
における読書活動の推進

読書活動の
普及啓発の推進

取組み方針

- ①はじめての絵本事業の推進
- ②保護者による読み聞かせの実施(ブックセカンド)
- ③家読(ファミリー読書)の推進
- ④読書の日、読書カードの実践(秋に北九州市子ども読書の日)
- ⑤電子機器、動画等を活用した読書のきっかけづくり(子ども電子図書館)

- ①学校図書館・学校図書館職員の利活用の促進
- ②学校、学校図書館と市立図書館との連携強化(小学2年生の見学、システム連携の検討)
- ③授業等を通じた読書習慣の形成
- ④読書を通じた交流の実施

- ①読書の「バリアフリー」化(デジ図書、外国籍対応など)
- ②来館のきっかけづくり(魅力的なイベントの実施など)
- ③非来館型サービスの導入などの機能の充実(子ども電子図書館)
- ④子ども図書館と地区図書館との連携強化
- ⑤読書通帳機の拡充
- ⑥読書ボランティアなどの育成・支援
- ⑦主体的に読書活動に関わる子どもの育成、支援(ジュニアサポーター制度など)

- ①幼稚園・保育所等における読み聞かせ、貸出の推進・支援
- ②子育て関連施設、市民センター等での読み聞かせの実施
- ③子育て関連施設、市民センター等と市立図書館との連携強化
- ④文化施設等との相互協力
- ⑤子どもが集まる商業・レジャー施設などとの協力の検討

- ①子どもの読書活動への理解促進
- ②SNS等を使った情報発信、双方向性やり取りの実施(ティーンズ(ヤングアダルト)層の取り込み)
- ③読書好きな子どもが輝く、交流・発信する場の提供
- ④読書好きな大人・家庭を増やす取組みの展開

主要施策

アクション

ビジョン

ミッション